

事例1

# 私と施設基準適時調査

## ～GW直前の悲劇～

医療法人社団善仁会 小山記念病院  
医事課課長 兼 医師支援室室長 山田克仁

私が所属する医療法人社団善仁会では、小山記念病院の他に無床診療所を2施設開設しており、主に法人本部が施設基準の届出を行っています。

中でも小山記念病院については、届出施設基準が多いことから、医事課および医療情報管理室が協力して管理しています。

### 課題と購入の背景

今回、『施設基準適時調査マニュアル（以下、マニュアル）』が発刊（5月中旬）されることとなり、施設基準の管理上非常に興味がありましたが、金額面で折り合いがつかず、当初は購入を見送る予定でした。

しかし、GW直前の5月1日になって「施設基準等に係る適時調査の実施について」が届き、状況が一変。GWに入り、適時調査に関する情報収集を行いつつ、急遽書籍の予約を行い購入と至りました。発売が少し延びたため、適時調査に間に合うかどうか、内心ヒヤヒヤしましたが、無事に到着して安堵しました。

マニュアルの到着後、書籍の厚さから情報量の多さに驚きましたが、それ以上に細かく付記されているアドバイスの驚嘆。一つひとつのアドバイスが丁寧で分かりやすく、また準備が必要な資料だけではなく、確認事項や想定される質問への回答方法、あらかじめ準備して置い

たほうがよい資料なども詳細に明記されており、非常に有用で事前準備の段階から重宝し、調査当日まで活用することができました。



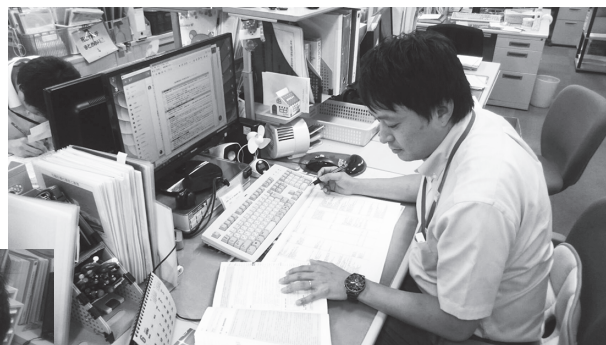
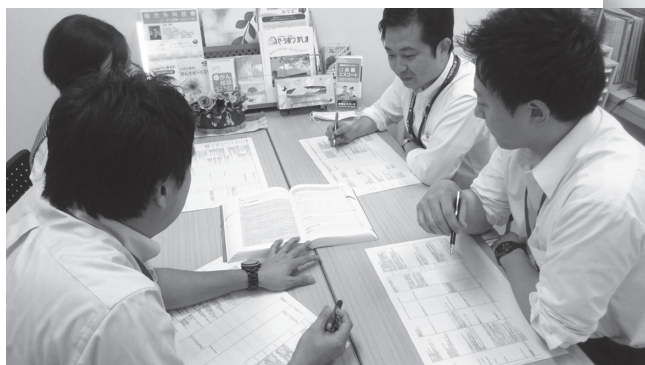
### 実際の活用方法

今回の適時調査では、まず対策チームを結成し、当院で届出を行っている施設基準の洗い出しを行いました。次に施設基準の条件や通知、専従・専任者、登録者などをまとめた一覧表を作成。施設基準ごとに担当者（専従者および専任者優先）を決定し、マニュアルから該当する施設基準部分を抜粋したものをコピーし、担当者へ配布しました。

コピー配布後、担当者ごとに提出が求められている資料の準備、確認を実施し対策チームのメンバーとディスカッションを繰り返し行いました。

特に7対1の入院基本料関連、入院基本料等加算の医療安全対策加算、感染防止対策加算、各種掲示物について重点的に確認を行いました。

入院基本料関連では様式9に対するアドバイスで、勤務時間に含んでもよい項目とそうではない項目の説明があり、さらに計上もれしやすい業務についての説明が付



記されていたため、分かりづらい様式9の作成に非常に有用であり、看護部の担当者にも好評でした。

前回の適時調査では、様式9について多くの指摘を受けていた経緯があったため、今回は医事課と看護部、医療情報管理室でマニュアルを基に複数回確認し作成しました。

また、医療安全対策加算については、専従者を配置しているため、マニュアルのコピーを配布し、資料の準備と予想される質問についての対策を依頼しました。担当者からは「資料がとても分かりやすく準備しやすい」と、こちらでも好評でした。

次に感染防止対策加算では、他医療機関とのカンファレンスや院内ラウンドはきちんと行っておりましたが、看護部の担当者が変わっていたことと、部門の位置づけに関して事務と看護部で解釈が違っていたことが今回のディスカッションで分かり、感染対策チームおよび委員会の位置づけの明確化および指針の一部見直しを行いました。

各種掲示物については、マニュアルのアドバイスにあるとおり、新たに追加した標榜科目の届出の記載もれや新しく届出した施設基準の記載もれがあったことや掲示していなければならない案内（栄養サポートチーム加算、明細書の無料発行、コンタクトレンズ等）がいつの間に

か剥がされていたこと、場所によっては古い掲示がされていたことなど、諸々の問題が浮上したため、マニュアルで再確認を行い、掲示物の管理を徹底しました。掲示物については、想定していない予想外な項目が多くあり、掲示物の確認についてもマニュアルが大活躍しました。

その他にも入院案内や家族の付き添い等についても細かなアドバイスがあり、当院のものと突き合わせてみるといくつか修正の必要な点がみられましたが、事前資料の提出期限に間に合わなかったため、やむを得ず修正を見送ったものがありました。

## 活用後の効果

調査当日、簡単なあいさつ、院内ラウンドから始まり、まず掲示物の確認へ。マニュアルを基に掲示物の確認を行っていたため、必要な掲示物の理解や場所、説明も適切に行うことができ、掲示物自体もアドバイスを基に一部修正していたため、ものの数分でチェック終了。

その後も医師事務作業補助室や診療情報管理室等をラウンドしましたが、驚いたことに質問内容や確認事項も事前に予想されていた質問とほとんどが同じニュアンスの質問であり、あらかじめ用意した資料等を活用し、担当者よりの確に説明したところ、すべて順調に経過し、大きな指摘はありませんでした。



#### 病院概要

病院名：医療法人社団善仁会 小山記念病院

所在地：茨城県鹿嶋市厨 5-1-2

電話：0299-85-1111

病床数：224床（一般194床、地域包括30床）

最終的に院内ラウンドの実施時間が予定より大幅に短縮され、午前中から施設基準書類確認となりました。

書類確認では、施設基準ごとに担当者より説明を実施。マニュアルのアドバイスを基に事前準備していたため、淡々と進み一部の施設基準に口頭での指摘がありました。書面での指摘事項はほとんどなく、また指摘のほとんどが事前にマニュアルを確認し、指摘を受けると、あらかじめ予想（入院案内等）されていた項目でした。

最後の結果説明では、前回の適時調査時より大きく改善していると高評をいただき、無事に適時調査を終了することができました。

#### 今後の課題

今回、施設基準適時調査を受け、無事に終了した反面、当院の今後の課題も浮き彫りになりました。特に施設基準ごとの責任者の明確化と職員の施設基準の条件や必要項目についての理解です。

平成28年4月から適時調査の方式が新しくなり、前回の適時調査から短いスパンで再調査となることや、適時調査前日に必要書類準備書類の連絡が来ることなど、今までよりも施設基準の正しい理解と活動記録や議事録等の日々の積み重ねが重要となります。

当院では『施設基準適時調査マニュアル』のおかげで

大きな指摘もありませんでしたが、これがなかったらと考えると正直怖く感じます。

今後はこのマニュアルを施設基準の管理に活用していき、医師、看護師、事務員を含むコ・メディカルスタッフへ施設基準の理解や情報の共有を図っていくとともに、コンプライアンスに沿った管理体制を構築し、今後2年周期で訪れる適時調査を常に万全な状態で迎え入れることができる体制を構築したいと考えます。

最後に施設基準適時調査は院内の現況を知るうえで非常に有用なイベントであり、またこのイベントの準備や結果を最大限活用することで、院内のさまざまなウィークポイントを見直すことができ、より良い病院運営につながる可以考虑されます。当院でも今回の施設基準適時調査を今後の糧とし、より良い病院となれるよう日々研鑽していきます。M